

事例 6 秋田県湯沢市

～病院への期日前投票所の設置～

- 市の面積：790.9km²
- 市の人口：46,613人（H27年国勢調査）
- 選挙人名簿登録者数：42,050人（H28参（選挙時登録））
- 投票所数：61箇所
- 期日前投票所数：5箇所（公共施設、病院）
- 直近選挙の投票率：59.94%（H28参）54.58%（H26衆）
- 18、19歳の投票率：18歳：42.80%、19歳：25.54%（H28参）

取組に至る経緯

選挙管理委員会では、投票率低下に歯止めをかけるため、当初は他の自治体が行っている大型商業施設への期日前投票所の設置を考えたが、湯沢市には適切な大型商業施設がなかった。そのため、交通弱者（乗合タクシーやバス等を利用）や高齢者の多くが利用する「雄勝中央病院」に期日前投票所を設置することについて検討した。

雄勝中央病院は、1日平均来院者数が約640人、入院患者数190人、また付添いやお見舞いの方も多く来院していることから、診察や薬をもらうまでの待ち時間等を利用した投票が可能となれば、投票率の増加も見込まれるとともに、病院側の不在者投票事務を軽減することも可能になると考えた。

また、全国的にも地域の総合病院に期日前投票所を設置している自治体はなく、平成28年の参議院選挙から設置できれば、より一層の選挙啓発が図られると考えた。

平成27年7月下旬に、電話により投票所設置を病院へ打診し、数日後に病院へ出向き、具体的な交渉を開始した。病院側には「地域に恩返ししたい」という考えがあり、期日前投票所設置が地域への恩返しになると捉えられ、交渉当初から好意的に対応いただいた。その後、具体的な設置場所や設置時間などの協議を進めた（正式な合意日は、協定締結日である平成28年4月27日）。

なお、今回の参院選での実施を契機に、病院側と目的、期間、使用料、責任、個人情報保護のあり方などを内容とする協定を結んだところであり、今後の設置に向けても、さらにスムーズな交渉が可能になると考えている。

（表1. 期日前投票所設置に係る主なスケジュール）

実施時期	取組内容
平成27年7月下旬	雄勝中央病院へ期日前投票所設置を打診
平成27年11月	企画立案・予算計上
平成27年12月～平成28年3月	仕様詳細の検討・協議・決定
平成28年4月27日	期日前投票所設置の協定書締結 （指定場所一時使用に関する協定書）
平成28年4月～6月	期日前投票システム構築、導入
平成28年6月15日	市広報への折り込みチラシで雄勝中央病院への期日前投票所設置を周知
平成28年6月22日	期日前投票所の設営
平成28年7月8日	期日前投票所の撤収

取組内容

○設置期間：6月23日～7月8日（土日除く）の8：30～15：00

他の期日前投票所と同様に、公示日の翌日から選挙期日の前日までとしたが、設置時間については、病院の意向で外来患者の来院が見込める土日を除いた平日の8時30分から15時までとした。

○設置場所：1階ロビー（正面入口すぐ）

病院の正面入口を歩いてすぐのロビーの使用を選管から提案し、病院側からもその他の場所の提案がなく合意を得た。ロビーは1階にあり、バリアフリー対策も講じられていることに加え、スペースが広く圧迫感のない明るい場所であるため、投票所へ行くことが困難な方でも気軽に投票できる環境づくりが可能であった。

また、投票所のレイアウトについては、選挙管理委員会において病院から提示された使用可能なスペースの中に、必要な機材等を設置できるよう工夫し、図1のとおりとした。

- 投票記載台（3人用及び1人用）：各2台
- 投票箱及び投票箱用置台：各2つ
- 記載台照明器具：8個
- 長机：6台
- イス（事務用）：7脚
- パーティション：10台
- ノートパソコン（期日前投票受付用）：2台
- プリンター：1台 等



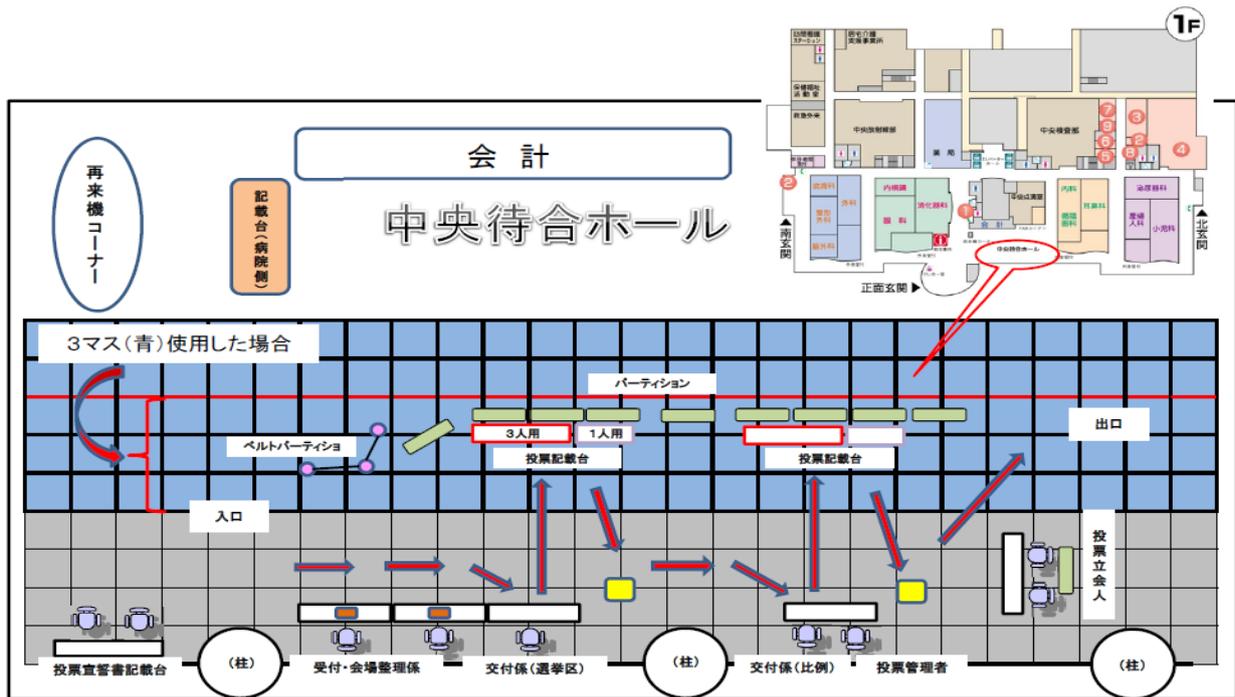
投票所の様子



機器の設置の様子

(図1. 投票所レイアウト)

病院内の1階、バリアフリーで圧迫感のない明るいロビーに設置。



○人員体制

表2のとおり、選挙管理委員会の配置人数を病院側へ提示し、病院側からの職員派遣は要望しなかった。

(表2. 人員体制)

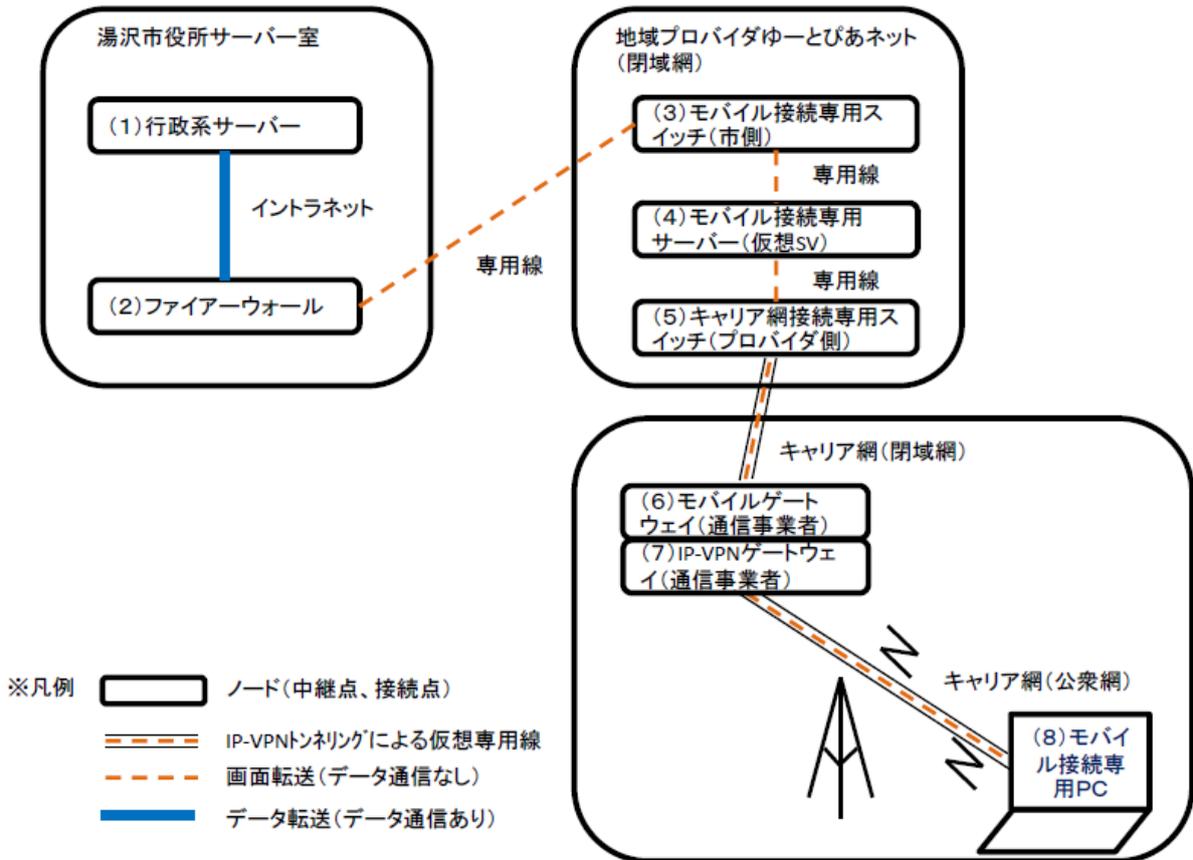
役割	人数	所属・役職
受付・会場整理係	2人	臨時職員
投票用紙交付係	1人	市職員
庶務係(投票用紙交付係兼務)	1人	市職員
期日前投票管理者	1人	市職員(部長・課長・班長)
期日前投票立会人	2人	選任された人

○期日前投票システムの構築

このほか、期日前投票所の増設に伴い、新たに病院内に期日前投票システムを構築した。

期日前投票システムの構成は図2のとおりであるが、雄勝中央病院まで有線で光通信回線を引くと費用が高くなるため、無線回線を利用し費用を抑えた。また、有線は物理的なインフラで市の資産となってしまうため、維持管理や運用に係る費用も発生するという観点からも、無線回線を採用した。

(図2：期日前投票システムモバイル接続環全体像)



(セキュリティ対策)

盗聴対策のため、VPN技術を採用し通信経路を専用回線とした。不正アクセス対策のため、キャリア閉域網VPNサービスとキャリアGWサービスを利用した。

(システム導入費用)

費用区分	費目	金額
初期費用	期日前投票システムモバイル接続環境整備	1,354,320 円
	期日前投票システムセットアップ	832,680 円
	サーバ及びパソコン一式購入	3,105,000 円
運用費用	期日前投票ネットワーク通信料	118,130 円/月

○諸経費

期日前投票所の増設に伴い必要となった経費は、以下のとおりである。

費目	金額 (実績)	金額 (H28 予算)
通信料	237 千円/2 ヶ月	237 千円/2 ヶ月
期日前投票システム導入費	2,187 千円	2,425 千円
備品購入費 (サーバ等一式、長机、イス等)	3,179 千円	3,461 千円
期日前投票立会人報酬	日額報酬 9,500 円	
臨時職員賃金	日額賃金 5,800 円	

取組の実績・効果

病院で期日前投票を行った者は1,220人（市内の期日前投票者数の約10%）であり、来院者の多い午前9時～11時に利用者が集中した。市内の投票率、期日前投票者の割合も増加し、病院に期日前投票所を設置した効果があったと考えている。

（参考）

H28 参院選投票率：59.94%、期日前投票者の割合：46.89%、期日前投票者数：11,788人

H26 衆院選投票率：54.58%、期日前投票者の割合：41.74%、期日前投票者数：9,539人

また、病院内で投票ができることについては、利用者の口コミで広まったり、テレビや新聞等にも取り上げられることにより、知名度が増加し、投票参加にも一定の効果があったものと考えている。

工夫した点

期日前投票所設置に関する周知は、全戸配布をしている参院選啓発用チラシを利用するほか、期日前投票所に配置された市職員から、事務に余裕ができた時間帯に、投票所入場券を持参しなくても投票できる旨を、来院者に対し口頭で呼びかけた。

事務従事体制としては、これまで期日前投票事務従事者のための研修会の開催や手引きの作成はなかったが、期日前投票所の増設に伴い、「参議院議員通常選挙 期日前投票事務のてびき」を新たに作成し、期日前投票事務従事者を対象とした研修会を初めて実施した。また、初めての取組でもあったことから、投票管理者には、トラブルに対応できる経験のある職員（選管OB）を配置した。

投票時間については、外来患者が来院する15時までとし、投票スペースの混雑緩和のため、病院の職員にはできるだけ14時以降に投票するよう、周知いただきたくなど、病院側の配慮もいただいた。

今後の課題

今回の参院選では、期日前投票システムのネットワーク障害がたびたび発生した。原因は明確ではないが、システムの仕様が「ある一定時間のアイドル状態が続くと切断される」といったものになっていたことが考えられ、期日前投票期間中は、ある程度時間が経過したらダミーでもアクセスするなどの運用でトラブルを回避した。また、無線回線ということもあり、ネットワークの接続が多少不安定になったことも考えられるため、今後は、システムの仕様とネットワークの安定性の両面から改善を図ることを考えている。

また、これまで期日前投票所は4箇所を設置されていたが、病院に増設したことにより、新たに市職員3名、臨時職員2名を確保する必要が生じたため、今後、経験のある事務従事職員の不足をどのようにカバーするかが課題である。